



さいたま市シニアユニバーシティ岩槻校 第9期会報第9号

会長挨拶 羽廣 晶子

私達9期のシニア大学もあと少しとなりました。初の女性会長と言うことで、どうなる事かとワクワク、ドキドキで臨みましたが、総会、文化祭、親睦旅行は素晴らしく楽しい事業を治める事が出来たと思っております。卒業文集もおおむね出来ており、素晴らしいものが出来あがりそうです。卒業懇親会の準備も着々進んでいるようですし楽しみです。振り返ってみますに、幼い時から引っ込み思案で、解っていても手を上げられない子でした。それがこのように会長をやらせていただいたのですから自分でも不思議な気がしています。大変だったのは、苦手意識のあるスピーチでした。行事のたびに「会長の挨拶を」と言われて胸中、四苦八苦。それと会報の「会長挨拶」が多いのには正直大変でした（笑）しかし、過ぎてみれば早いもので、あっと言う間でした。今は勇気を出してやってよかったと思っております。このような体験ができたのは大きな喜びでした。これもひとえに皆様の支えと御協力があったからこそと感謝しております。ありがとうございました。

さて最近ですが、ショッキングなニュースが飛び込んできました。パキスタンの女の子が銃で撃たれたというもの。女の子は学校で勉強してはいけないと言うことで撃たれたんだそうです。何とか一命を取り留め、この事を勇気を出して世界に知ってもらおうと講演しているようです。また、世界では餓えた人が沢山いて、まだまだ貧しい国が沢山あるようです。日本はその点、恵まれているんですね。宮沢 賢治さんが言っているように「世界全体が幸せにならなければ、個人の幸せはない」と。世界中の誰もが気持ちよく、愛と平和に満たされた生活ができるようになるといいです。世界中でブータンの人たちが「自分たちが世界中で一番幸せだ」と思っているようです。物や金だけではなく、幸せは心が決める事を教えてくれているようです。私達も年輪を重ねた分、体験豊富ですし豊かな心で、周りに温かく接していけたら暖かい社会が築けると思います。お互い温かな心を育てたいものです。

会計報告 1班 関谷 謙

岩槻校9期の会計を担当（宮崎・関谷）し、皆さんから学友会費（2,000円/人）を集めさせて頂いたのが7月、アツという間の7ヶ月でした、この間文化祭、親睦旅行と学友会事業は順調に進み、最終月の3月に記念文集の発行・親睦会開催そして総会となります。皆さんから頂いた大切な会費が、どのように消費されているのか（予測含む）をお知らせする機会が無かったので現在の状況をお知らせします。

	費目	予算 A	実績+予測 B	差(B-A)	備考
収入	会費	15,200	146,000	▲6,000	入学76名 不参加者3名
支出	事業管理費	12,000	7,408	▲4,592	予測
	事業費 文化祭	50,000	49,739	▲261	実績
	旅行	20,000	22,853	2,853	実績
	記念文集	30,000	40,000	10,000	増加予測 支給済み
	懇親会	20,000	26,000	6,000	盛上費用追加 支給済み
	予備費	20,000	0	▲20,000	事業費に転用
	支出計	152,000	146,000	▲6,000	
収支		0	0	0	

尚学友会総会は3/10（懇親会会場）予定ですので、会計報告は予測を含み行います。予測値算出ですので+・-発生の場合は次年度の大学院組織に引継ぐ。上記は1/20の理事会で審議し承認を頂き運用しております。

私の故郷は信州上田

2班 中澤 良行



私は信州（長野県）上田の産です。上田は県の東部で軽井沢と長野の中間に位置し、山々に囲まれ千曲川が流れ、近くには別所温泉を始め幾つかの温泉が点在する風光明媚な人口 16 万の地方都市です。上田と言えば先ず六文銭旗印真田です。上田城を築いた知将真田昌幸が上田攻めの徳川軍を 2 度にわたり退けたこと、二男幸村が大阪冬の陣、夏の陣出の活躍などは、後世の歴史家や作家連が多少の誇張はあるかもしれませんが語っており、我が故郷の誇りです。私の出身校は上田城の外堀に一部囲まれ、当時の城門が現在も校門として長い歴史を刻んでいます。

信州には、誰もが口ずさむ県歌「信州の国」があります。歌詞には、地名、人名、産業、景勝地等が詠まれ、一読すると自然に信州を一巡したような気持ちにさせます。古き仲間との出会いで、遠く故郷に思いを馳せながら「信濃の国は十州に境連ぬる国にして・・・」と歌うと、今どこに住んでいようとも我が信州上田がよみがえってきます。

私の趣味 “感謝されること”

4班 浪江 信雄



入学してアット言う間に 1 年が過ぎようとしています。入学の条件として、60 歳以上とのことで私より若い方がある程度は居ると思いました。しかし、平均年齢は 69.5 歳と高く、80 歳を超える方も多くおり、私などは若造の部類でした。

入学の動機は「費用も安く暇つぶしができること。」及び市主催の学校ですから「上げ膳据え膳」で授業が受けられると思っていました。しかし、成り行きで総務担当、班長、パソコンクラブ部長並びにインターネットのホームページ担当者を請け負いました。その結果、当初は、学友会規約案の作成、総会の段取り及び各資料作成印刷並びにパソコンクラブの結成、ホームページの開設など忙しい日々が続きました。

しかし、振り返ると忙しくとも辛いことはなく楽しいことでした。それは、会長などから「ご苦労様」の感謝の一言が更に頑張る気持ちになりました。また、班の方々やパソコンクラブの方々とも楽しい時間を過ごさせて頂いております。私は多趣味で、その中でも「喜んでもらえること。」が一番楽しい趣味であることが分かりました。一人で散歩や温水プールに通っていることは健康には良いことですが、私には単にそれだけのこと、です。

人から感謝されると言うことは、多少の金銭的な負担があったとしても、私にとっては大変嬉しく、心の栄養剤になっています。

これから大学院に進み、その後もシニアユニバーシティ岩槻第 9 期生として皆さんと一生付き合せて頂きますので、私にできることでしたら何なりと申し付けください。今後共よろしくお願い申し上げます。

編集後記 「会報 9 号の編集を終えて」

私が勝手に「言いだしっぺ」になり、毎月皆様のお手元に拙い会報をお届け続けて丁度 10 か月になりました。最初は学生さんからの投稿が全くなく、強引にクラブ活動の部長さん達に原稿を書いて頂きました。最初に投稿があったのが第 4 号の一班の大塚 幸子さんと 4 班の唐澤 初枝さんでした。これでやっと私がもくろんだ「全員参加の会報」の緒に就きました。私の目論見は「全ての原稿は学生さんの文章で」紙面を飾ることでした。それからテーマを考え「我がふるさと自慢」にしたところ結構投稿があり、編集が楽になりました。それまでは講義の解説ばかりで面白くありませんでした。12月号から1月号にかけて詩や俳句の投稿があり、多才な学生さんの一端を御披露する事が出来て編集冥利に尽きました。私が編集者として最も感動したことをお伝えして、お読みになって頂いた感謝の気持ちにさせていただきます。それはある学生さんが「第〇〇号が抜けているので頂けませんか」とのお申し出でした。本来、このような会報はどちらかと言えば粗大ごみの一種でして、お家に帰ればゴミ箱に直行するのが普通であります。私はこの学生さんの一言で、「続けて良かった」と嬉しくなりました。皆様のご希望があれば大学院でも作成させていただきますが、条件は皆様の投稿です。 2班 瀧田 和雄